



向こう三軒両隣 普段の交流が 災害時の減災につながると信じて



北海道北見太陽わらべ太鼓少年消防クラブ
顧問 山内 克也

1 私達の地域

私達の住む北見市はオホーツク海東部に面し、北海道の中央にそびえる大雪山を横断する石北峠の頂上からオホーツク海までの約110キロの距離と広い面積を活動地域としておりその広さは東京都の面積とほぼ同じ広さになり、気候は冬期間、氷点下25度まで下がり厳寒で夏は35度近くまで上がる温度差の激しい地域です。主な農作物は玉葱やジャガイモ・米、海産物はホタテ・鮭などです。

2 クラブの結成

私達地域の消防クラブの結成は昭和55年7月に少年消防クラブと婦人防火クラブの結成から始まり、昭和62年に幼年消防クラブが結成されました。

平成2年に幼年・少年・婦人防火クラブの3つのクラブを統合し北見地区幼年少年婦人防火委員会として新たに歩みだし、現在は幼年39団体・少年3団体・婦人9団体の総勢5,319名の方々が各地域や施設で防火・防災活動に取り組んでいます。

しかし、近年の少子化や過疎化により小規模へき地校を中心に結成していた少年消

防クラブが閉校の為に減少し、なかなか少年消防クラブ員を増やすのが難しい状況で苦慮していたところ、少年消防クラブ員の構成年齢が小中学生から高校生まで引き上げられたのを期に他の活動団体に消防クラブの活動を取り入れて頂き、少しでも防火意識の高揚・普及につながればと考えました。

幸いにも保育園で幼年消防クラブを経験した子どもや親達で結成されている「太陽わらべ太鼓保存会」に相談したところ、「郷土を愛し地域の伝統文化を創生し後世に残す」などの共通の目標等が多くあり且つ主たる構成年齢が高校生までと合致。保護者の賛同も得られ平成22年11月に結成の運びとなりました。

3 活動状況

クラブの活動は、小学校高学年・中学生を中心に毎週一回、金曜日の太鼓練習前に規律訓練や結索訓練等を行いながら和太鼓の活動の中に防火・防災学習を組み込み、継続性を持った指導を行っております。

その姿を見て育つ後輩たちには先輩たちの姿や活動服が憧れとなって居るようです。

毎年7月に開催される防災フェスティバ



防災フェスティバルでの和太鼓演奏



山内会長と記念撮影



軽可搬ポンプ操法



規律訓練



ロープ結索訓練



幼年少年婦人防火大会での和太鼓演奏

ルでの軽可搬ポンプ操作法の訓練・披露や夏休みに開催される少年消防クラブ一泊学習会への参加。3年に一度開催の幼年少年婦人防火大会への参加や歳末火災特別警戒での啓発活動など、時には和太鼓演奏をまじえて市民の皆様には火の用心を訴えています。

4 全国交流大会に参加して

第1回全国交流大会へも参加しました。入賞こそ逃しましたが子ども達にとって忘れる事の出来無い良き思い出と自信に繋がりました。参加の目的は競技としてではなくあくまでも訓練の一環として取り組むことを第一に掲げ、競技中の行動はきびきびと美しく、移動は隊列を組んで駆け足で、声は大きく、操作は正しく正確に等が目的でした。それでもやはり結果発表後は入賞出来無かった悔しさに皆、待機所で涙を流していました。でもこの涙は次の大会へ向けた大きな意欲ともなったようです。

5 命を守る訓練

毎年、訓練開始時に子ども達に話す言葉として「この訓練は命を守る訓練であり遊びではない。決して楽しく面白いものばかりでは無い。」と釘を刺し、特別な活動である事を自覚させています。その為に返事や伝達、会話は大きな声でハッキリ正確にしなければならぬ事を知らせ指導は始まります。現代の子ども達の中には大きな声が出せない、自分の意見を言わない子ども達

が増えていきます。

その中で少年消防クラブの訓練・活動を通して、少しずつではありますが自分の意見を大きな声で発表出来る様になって行く姿は、指導している者として大きな喜びの一つでもあります。

6 対岸の火事

私達の住む地域は昔から大きな自然災害もなく住みやすい街として過ごして来ました。しかしこの安易な意識が、「危機意識の低い無防備な環境を作り上げている」と言っても過言ではありません。日本各地で起きている自然災害をテレビや報道で目にしますが、対岸の火事を見るが如く私達の地域では起きる訳がないと高を括って備えをしない人が多いのが現状です。

クラブの子ども達には日頃、各地で起きている災害の大きさが実感出来る様に被害の大きさや怖さを身近な物に例えて話し、自分たちで出来る事や対応について意見を聞き、皆で話し合うようにしています。

7 今後の子ども達に望むもの

地域が広大なゆえに即応性が求められる災害が発生した時に自分は何をしななければならないのかを判断出来る子。これから更に色々な知識や技能を身につけ自分の身は自分で守れる子。そしてその知識や技術を活かし、将来の地域防災の要になる大人へと成長してくれる事を願っています。